

■R01.09.09 市長定例記者会見内容

日時 令和元年9月9日（月）午前11時～11時30分

場所 庁議室

出席 市長、副市長、総務部長、企画部長、危機管理監、地域創生部交流推進調整監、市長公室長、危機管理課長、企画調整課長
酒田記者クラブ 10社（荘内日報、山形新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、SAY、YBC、TUY）
コミュニティ新聞社（記者クラブの承認による）

■市長発表内容

【酒田市総合防災訓練について】

10月13日（日）、酒田市総合防災訓練防災訓練を開催する。

避難勧告・避難指示の発令となった昨年8月の豪雨災害を踏まえ、従来の地震想定から大規模水害想定（最上川の氾濫）により実施する。会場は4中学区（宮野浦小学校区、十坂小学校区）。宮野浦小学校、十坂小学校、第四中学校3つの学校で避難所運営訓練を同時実施する。

昨年度から従来の展示型（統監が各展示訓練を見て回る訓練）から住民が主体となった避難所運営訓練を中心とした実践型訓練を実施している。今年度は、災害対策本部で最上川氾濫の詳細タイムラインを実践するとともに、福祉避難所設置運営訓練、要配慮者施設避難訓練を新たに実施する。

●危機管理監説明

・最上川氾濫詳細タイムラインについて

新たな取組みを中心に説明する。昨年の豪雨災害を教訓に、国土交通省、県（庄内総合支庁）、酒田警察署、酒田地区広域行政組合消防本部、消防団の関係機関とワークショップを行いながら、最上川氾濫の詳細タイムラインを策定してきた（10月4日にタイムライン演習を予定）。このタイムラインを、総合防災訓練で実践しその内容を検証する。

・福祉避難所運営訓練について

福祉避難所は、高齢者、障害者など一般の避難所では生活に支障がある人（要配慮者）を対象に配慮がなされた避難所で、本市では、13法人19施設と福祉避難所の設置運営に関する協定を締結しているが、これまで特段具体的な取り組みを実施してこなかった。今回、初めて実際に福祉避難所の設置運営訓練を協定施設（介護老人福祉施設「あおい」）で実施する。市総合防災訓練の中で、災害対策本部と避難所と連絡調整を行いながら福祉避難所の開設を決定し、実際の避難所（各中学校）から福祉避難所へ移送する実地訓練を行います。市総合防災訓練で、福祉避難所開設運営訓練を実施するのは県内では初めての試みとなると思われる。

・要配慮者施設避難訓練について

本年3月に「逃げ遅れゼロ」の実現に向けて改正水防法に基づき河川の最大氾濫想定区域内にある要配慮者施設（介護施設、保育園、幼稚園、小中学校、医療機関など）を地域防災計画で指定した。最上川の河口部にあることから200施設を超える施設となり、県内では最大の施設数となる。本年中に、義務化された避難確保計画策定を進める予定。今回の訓練により、実際の避難の課題を明らかにする。

・防災訓練関連事業について

東北初の社会福祉施設版HUG体験会の実施について

10月13日（日）の市総合防災訓練の中での福祉避難所設置運営訓練の実施に向け、広く課題を共有するために、福祉避難所の協定法人及び福祉避難所関係者による社会福祉施設版HUG（避難所運営ゲーム）体験会を開催する。日時は令和元年9月25日（水）午後1時から午後5時で、場所は勤労者福祉センター3階大会議室。

最上川洪水詳細タイムライン演習について

昨年8月の豪雨時の教訓を踏まえ、最上川増水対応に、今年度市の市各部署、関係機関の洪水時の対応を整理した詳細タイムラインの作成を進めてきた。これまで3回のワークショップを開催し原案がまとまったことから、内容を検証するためのタイムライン演習を行う。この演習で内容を検証・見直しした上で、10月13日（日）酒田市総合防災訓練で実際に運用する。日時は令和元年10月4日（金）午後3時から5時で、場所は市役所4階災害対策室。

【質疑応答】

記者／タイムラインの策定について。10月13日まで最終的に策定するのか。

危機管理監／そのとおり。おおむねできてはいるが、実際の動かしてみようというのが10月4日。そこで具体的なタイムラインをつくり、実際の総合防災訓練で使用する。ここでまた修正点があれば見直していく。

記者／最上川の氾濫の危機があった。今年に入ってから地震があった。避難に課題があったと思うが、改めて今回の防災訓練ではどのような点を意識していくのか。

市長／避難所のあり方について前回の反省も踏まえて、宮野浦・十坂学区については避難所の設置運営訓練を実践的に取り組む。災害そのものは避けようがないので、起きた時に安全に避難できて、避難所の生活も不自由なくできるかという共通認識に立てるよう、改善していく材料にもしていきたい。タイムラインの策定も含めて避難所・避難施設について特に検証できるいい機会になるのではないかなと思う。心してこの訓練に取り組みたい。

記者／拡声器の音が聞き取れないなど反省点があったと思うが今年度の改善点は。

危機管理監／昨年初めて実施した。反省点を改善していきたい。拡声器で話すことについては、注目してもらおうという点がある。注目してもらったうえで一つの方向に話して

いくという効果もある。防災士からも協力いただき、前回の改善点も見直して臨んでいきたい。

記者／今まで川の氾濫を想定した訓練はあったのか。

危機管理監／なかった。これまでは地震を想定したもの。昨年8月の豪雨災害を踏まえて、最上川の氾濫を想定した訓練を行うことにした。

記者／地震の時と洪水の時は避難所が違うのか。

危機管理課長／洪水はまず2階に避難してもらうことになる。宮野浦小学校、第4中学校についても1階は浸水する想定。避難と避難所運営の訓練は分けて考えている。逃げるエリアについては宮野浦全体が浸水区域ではない。浸水区域や周辺の方は一旦2階に避難するという違いがある。その後情報伝達でお知らせしていく。

危機管理監／発生して1段階目は2階に逃げる、避難所の運営は体育館などで行っていく。2段階で計画を立てている。

記者／要配慮者施設の避難訓練について、介護老人福祉施設あおいで実施ということか。

危機管理監／光風会で運営する施設が数か所ある。介護老人福祉施設ではあおいで実施する。あとは芙蓉荘を想定して避難訓練を行う。

記者／総合防災訓練の一環ではあると思うが、実際には別の訓練となっているのか。

危機管理監／そのとおり。介護保険課に手伝ってもらい実施する。対策本部、避難所。福祉施設といった広域で大掛かりな訓練になっている。

記者／各地区で住民の自主的避難が重要だと考えるが、どの程度の地区で定期的な避難訓練が実施されているのか。市の目標数値はどのくらいか。

危機管理監／コミュニティ振興会単位ではすべて実施している。自治会単位は全部ではない。3月に照会かけて集約はしている。

記者／夜の避難訓練についてはどうか。東海地域では地域住民の自主的な夜の避難訓練しているようだ。

危機／今のところ、市が主導して行うことは考えていないが、日向地区では子どもたちが泊まり込んだ訓練など行っているようだ。自治会単位で行ってみたいという声は聞くが、実際実施しているところはない。実施したいところがあれば市としては協力していく。

【懇談・フリー質問（幹事社）河北新報】

記者／選挙戦を終えて2期目に向けた所感と意気込みは。

市長／これまでやってきたことを市民にアピールさせていただいて、引き続き2期目に関しても方針通り「賑わいの創出に向けて人財と風土が支える産業・交流都市酒田」を一つの旗印としつつ、粛々とさまざまな策を打っていききたい。特に力を入れていきたい子育て支援に関しては、県内トップレベルの保育料軽減策と述べさせていただいたし、屋内型の遊戯施設的なものを検討することも公約で述べさせていただいたので、実現に

向けて速やかに行動に移りたい。もう一つは小中一貫教育について、これからの地域を支える人材育成のために酒田市独自の教育システムを作っていければと思う。すでに作業は始まっているわけだが、全小中学校の区域にシステムを導入できるように粛々と教育委員会から進めていただきたい。

記者／防衛省で公開したイージスアショアに関して、候補地の再調査入るという公告あった。酒田市も升田と宮野浦に候補地があるが、防衛省から話はあるか。

市長／酒田市には何もきていない。前回も何もきていなかった。自分たちとしてはまったくかわる余地はなかった。さまざまな事情により不適となったことは後に知った。再調査の結果について興味は持っているが、再調査について国や県などからの打診もない。これからこういった説明があるのか、こういった結果になるのか注意深く見守っていききたい。

記者／受け入れを検討することはありえるのか。

市長／これについては市民や議会の意見も踏まえないといけないので、軽率な判断はできないと思っている。

記者／子育ての屋内遊戯施設について。今任期中にどの程度やるのか。

市長／これから。初めから公約に上げてはいなかったが、選挙で子育て世代と話す中で、その声が大きかった。今子育て支援計画を作っているわけだが、アンケート調査も行っている。そのニーズの一番上に屋内型遊戯施設がくる。それを踏まえると、保育料の軽減措置に関しては国の保育料無償化に乗った形で粛々と進めるが、独自策としては施設を進めなければならない。こういった形で進めていくか関係部署に指示をしつつ進めていきたい。他市町では民間ベースでやっている。やはり身近なところにほしいという声は圧倒的に多かった。その声にこたえないと、子育て世代への支援策としてなかなかアピールできないとすれば、子育て支援の充実をメインにしたわけだから、それを実施するのが自分の2期目の使命だと認識している。ほかの地域と競合するようなものは作りたくないという思いもある。あまり同じ機能にならないような施設にしていかなければならない。

記者／遊佐の施設によく行くが、酒田の人が半分くらいいる。

市長／酒田市が作ったから、遊佐の施設は閑古鳥が鳴くのも困る。そうならないような仕掛けを考えていきたい。飯森山など屋外施設には他市町から来ていただいている。広域的な視点で考えることも必要。遊戯施設だけの問題ではなく、付帯する機能を考えなければならない。

記者／酒田市には交流ひろばがある。子育て世代の方々はそれでは物足りないということなのか。

市長／物足りないと思ってるのかもしれない。規模自体も小さい。遊戯施設は、大型遊具を置くだけの施設ではなく、子育て世代から意見を聞かなければならないと思っている。ワークショップなどを開きながら、本当に望む施設とはどんなものなのか組み立て

る必要がある。

【その他】

・第 27 回北前船寄港地フォーラム in 庄内について

交流推進調整監／すでに中国から東北に視察に入っている。中国大連の旅行関係者 53 名、行政関係者 11 名合わせて 64 名の方々がいらしている。9 月 11 日（水）午後 6 時から表敬訪問、その後前夜祭を行う。翌 12 日、フォーラムは午前 9 時 30 分から鶴岡市の荘銀タクトを会場に行う。鶴岡市の加茂港が今年日本遺産へ追加認定されたこともあり、そのお祝いとして鶴岡を会場に開催する。午後から中国の旅行関係者と東北管内のインバウンドを受け入れたい事業者とで商談会を、市国体記念体育館で行う。日本国内から 64 事業者が参加する。取材をお願いしたい。

以上